

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397500055		
法人名	中部グループ株式会社		
事業所名	グループホーム どんぐりの里 みかんユニット		
所在地	弥富市森津9丁目14番地4		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和5年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2397500055-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様のご要望をお聞きし、行事や趣味活動、一緒に行えるおやつ作りなどのレクリエーションなど、様々な試みを行っております。体操と散歩は毎日行っておりますが、その他にも、お花見や夏祭り、クリスマス会など、季節を感じることでできるレクリエーションを毎月催しております。コロナの為、面会が制限されていますが、入居者様の近況を、毎月写真やお手紙でお伝えしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームについては、令和4年3月に運営法人(株式会社中部グループ)の法人代表者の退任し、新たに当ホーム隣のグループホームの運営法人(瑞穂介護センター)の法人代表者が株式会社中部グループの法人代表者に就任したことで、隣り同士のグループホームが関連事業所に移行している。関連事業所に移行したことで、職員が両方の事業所に勤務することが可能になったことや日常の記録方法のシステムの統一化の検討や食事の提供方法の変更等、利用者や職員にとって前向きな効果にもつながっている。非常災害に関する取り組みについては、以前より、合同で訓練を行う取り組みが行われており、事業所間で協力関係をつくる取り組みが行われている。日常の支援については、基本理念に変更が行われておらず、今までと同じような支援が行えるように職員間での検討が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	管理者と職員は、理念を共有し実践できるように常に心掛けている。	ホームでは、経営理念とケア理念をつくり、職員による支援の基本としている。当ホームは法人代表者が交代し、新たな支援体制に移行しているが、理念については、引き続き同じ内容で継承されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の状況により、外部との交流が少なくなったが、近隣の幼稚園児が時々庭に遊びに来てくれる。	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難な状況が続いているが、町内会に入り、回覧板等を通じた情報交換等が行われている。地域の幼稚園との交流については、当ホーム隣りの関連事業所を含めて交流を継続している。	地域の方との交流が困難な状況が続いていることもあるため、当ホーム隣りの関連事業所とも連携しながら、地域の方との交流が深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍により地域の人々との交流を控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍により書面での会議となっている。書面回答について話し合いサービス向上に活かしている。	ホームでは、参加者を限定して会議の実施を継続しており、関係者にも書面を配布しながら、ホームの運営状況等の報告が行われている。例年については、当ホーム隣りの関連事業所と連携して会議を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議等で施設の実情などを伝え意見を伺い、協力関係を築くように取り組んでいる。	市内の介護事業所が集まる連絡会等が行われる際には、ホームからも職員が参加しており、ホームへの運営に反映につなげている。また、地域包括支援センターとの情報交換等も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	社内研修などで身体拘束の意味を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、居室の窓から出入りができることで、職員間で利用者の見守りが行われている。また、身体拘束に関する現状の確認や職員研修を実施し、職員の振り返りや注意喚起等につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修や勉強会を行い、虐待のないケアを心掛けている。ミーティングでの周知やヒヤリハットの活用など虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は社内研修などで学ぶ機会を持ち、個々の必要性を話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間を十分に取って説明し、不安や疑問点などを尋ね、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話や手紙などでご家族との連絡を密にとり、意見を伺い運営に反映させている。	家族との交流が困難な状況が続いているが、玄関先で面会を行う等、可能な範囲で交流が行われている。法人の体制が変更になったことで、新たに法人の幹部職員による対応も行われている。ホーム便りの作成の他にもLINEを活用した情報交換等も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングなどで職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。	運営法人の代表者が変更になったことで、運営体制も変更になっている。管理者を通じて出された職員からの意見等は、新たに法人の幹部職員による対応も行われている。改めて職員面談も行われており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員は内外の研修を受ける機会を持つことができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	隣接する施設と交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時に本人の困っていることや不安なことに耳を傾け、安心できるような関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時に家族から、困っていることや不安なこと、要望などを聞き信頼関係を築くよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時に本人と家族から要望を聞き、その時必要としているサービスを見極め提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の個性や生活歴を大切に、家事などのできることは手伝っていただきながら、寄り添って暮らしていける信頼関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	近況を報告し、家族と本人の絆を大切にしながら、時には家族の協力を得て、本人をサポートできる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	玄関で短時間の面会など、コロナ禍で時間は限られるが交流を保てるように支援している。	外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には入居前からの関係の方がホームに訪問する等、可能な範囲で交流を継続している。また、身内の方の葬儀に出かけることができるように、ホームでも外出支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクなどを通して、利用者同士が関わり合い、交流できるように職員が見守り、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も家族と電話やメールなどで生活についての相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の希望や意向を把握できるよう、会話する機会を多く持つようにしている。困難な場合は、家族や職員と話し合っている。	職員全員で利用者の意向等に関する把握が行われており、電気記録も活用しながら職員間での情報の共有が行われている。随時のカンファレンスを実施し、利用者や家族の意向等を検討し、センター方式を活用したアセスメントや日常の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者や家族、関係者から話を聞き、職員同士で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の心身状態、有する力等の現状の把握に努め、申し送り等記録に残し、職員同士で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族から意見を聞き、職員同士で話し合っって現状に即した介護計画を作成している。	介護計画を6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常の記録については、新たに電子記録も活用した支援内容のチェックが行われており、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の問題を毎月のミーティングで話し合い、情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個別ケアを行うにあたり、本人や家族のその時々のニーズに対応し、柔軟な支援ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍の為、必要最低限の交流となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医と関係を築き、定期的な往診や訪問看護、夜間の緊急時なども適切な医療を受けることができるよう支援している。	訪問診療専門の医療機関との連携が行われており、医療面での定期的及び随時の支援が行われている。受診については、家族による支援の他にも職員による支援も行われている。また、訪問看護による医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護時に利用者の状態や健康管理について相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して治療できるように病院に情報提供を行い、退院時は早期に退院できるように情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合や終末期について本人や家族と話し合いをしている。重篤時には家族、かかりつけ医などと協議し方針を共有している。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、協力医との連携も行いながら利用者の看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、特養への移行支援も行いながら、意向等に合わせた支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修や勉強会、ミーティングなどの時間を使い、急変時の対応などを学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災訓練や水害時の訓練などを定期的に行っている。隣接の施設と合同の避難訓練も行っている。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等も行われている。当ホーム隣の関連事業所と連携した水害想定訓練も実施している。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	当ホーム隣の事業所が関連事業所に移行したことで、緊急時の自動車の融通等、連携がしやすくなっている。非常災害時の対策に関する今後の取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な言葉使いや対応を心掛けている。	経営理念の他にケア理念を掲げており、職員による利用者への対応の基本指針にもつながっている。職員による対応で管理者が気になった際には、注意喚起等の取り組みが行われている。また、新たな体制下での職員研修についても実施が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が希望や想いを発言しやすいようにコミュニケーションをとり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのその日の体調や気分を把握し、どのように過ごしたいか本人の希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔に努め、本人の好む服装や身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好きなメニューを伺い、一緒に準備をして楽しみながら食事ができるように支援している。	当ホームの食事についても提供方法が変更になっており、外部業者を活用した食事の提供が行われており、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。食事レクやおやつ作りも行いながら、利用者もできることに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事摂取量や水分量を確認し、体調の管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとりの状態に合わせて、一部介助や介助を行い、自立している利用者にも毎食後声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	自立の利用者の見守りと、介助が必要な利用者の排泄の間隔を把握し誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄に関する記録については、電子記録の他にも書面でも残しており、日常的に情報交換を行い、一人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を基本に、職員2名での対応も行いながら、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量の確認を行い、運動への働きかけなど個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴前に本人の意思を確認し、希望に沿った入浴ができるように支援している。	毎日の入浴の準備を行いながら、利用者が週2～3回の入浴ができるように、入浴拒む方にも声かけを工夫しながら、定期的な入浴につなげる支援が行われている。また、入浴剤を入れたり、季節等にも合わせた入浴の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	休息や十分な睡眠がとれるように、衣類や室温の調節を行い、寝具の清潔に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の副作用、用法や用量について理解し、症状の変化に気を配り、かかりつけ医や薬局と協力して服薬の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の得意分野で役割を持ち、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。楽しみや喜びを持てるように利用者に希望を聞きレクや行事を企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候やその時の利用者の体調などを把握し、希望に沿った外出支援を行っている。	利用者の外出が困難な状況が続いているが、近隣地域が田園地帯である利点も活かしながら、日常的に散歩にでかける機会がつけられている。利用者の外出の取り組みについては、今後の状況にも合わせながら、徐々に外出行事を再開する意向でもある。	当ホームにはないが関連事業所には普通車が確保されていることで、利用者の外出にもつながることも考えられる。今後に向けたホームの前向きな取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の力や希望に応じて所持したり使う機会を持てるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があった時は、電話を繋いだり、手紙を郵送できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合った壁面飾りや、写真の掲示などをして生活感、季節感をとりいれて居心地よく過ごせるようにしている。季節に合った衣服や、室温などに配慮している。	ホーム内は両ユニットが平面がつながっていることで広めの空間がつけられており、利用者が日中の時間をゆったりと過ごすことができる生活環境がつけられている。季節に合わせた飾り付けや花を飾る等、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った利用者同士で会話ができるようにソファやテーブルを配置したり、自由に心地よく過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた品物を自由に持ち込んで頂き、居心地よく過ごせるような居室作りに努めている。	居室については、シンプルな雰囲気の居室の方もありますが、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類の持ち込みや好みの物等の持ち込みが行われている。また、居室にクローゼットが設置されていることで、車椅子の方も居室内を広く活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の安心や安全を心掛け、日時が分かるようカレンダーや時計をいくつか配置し、自立した生活が遅れるような環境作りを行っている。		